

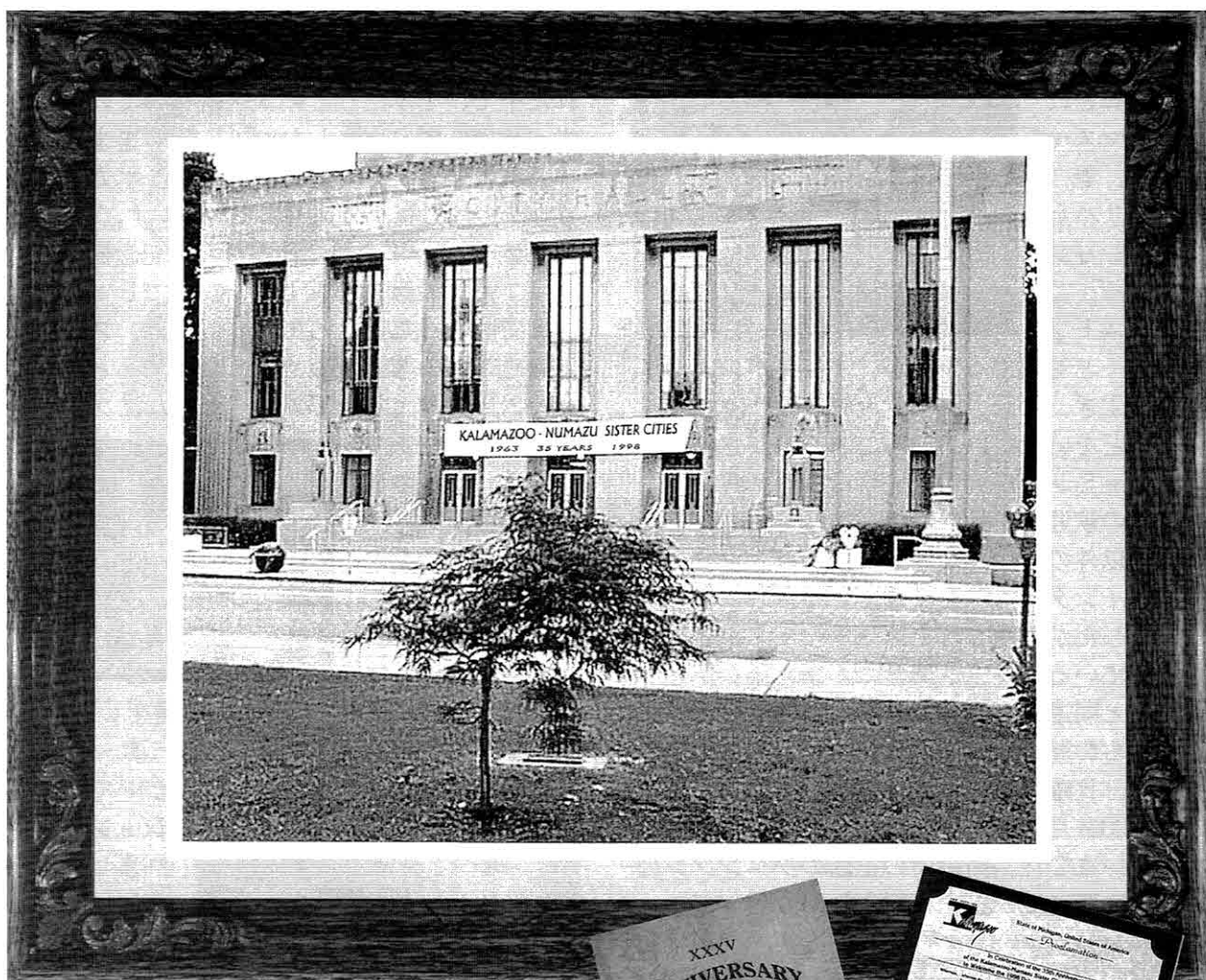


Numazu association for International Communications & Exchanges

Vol.29

発行日 1998年 8月31日
 発行者 NICE沼津国際交流協会
 (企画広報部会)
 所在地 沼津市御幸町16番1号
 (事務局) 沼津市役所国際交流室内
 ☎0559-34-2529

沼津・カラマズー姉妹都市 提携35周年記念特集号



...on May 10, 1963, the City of Kalamazoo and Numazu, Japan entered into a sister city relationship that has spanned 35 years involving numerous rewarding exchanges between the two cities with visits from students, teachers, businessmen, trade technicians and City officials; and...



The special article

The special article

姉妹都市提携

35周年記念セレモニー

フロンソン公園で、
市役所で、
市議会で。

隔年の相互訪問ですが、今年は特別の意味のある年となりました。市民訪問団10名、市立高生10名、引率教師2名の22名が7月17日より23日まで訪カしました。35周年を祝うために記念交流史誌を携えての訪問でした。2台のパトカーに先導されてカラマズー入りし、着いたのがリハビリテーションセンター。ここでホストファミリーと対面する予定が、すべてがスムーズに運びすぎ、用意された飲み物や手作りのクッキーなどをいただいているころ、市長さんやホストファミリーが到着。先ずはお疲れさま、ようこそその歓迎、市長さんのご挨拶やホストファミリー以外のなつかしい顔も見つけ、カラマズー紙のインタビューを受けているうちに解散となりましたが、残されたスーツケースがどうやら違っているようです。興奮のあまり誰かが他の人の物と間違えて運んでしまったのでしょうか。最初からお騒がせでした。



土曜、日曜とホストファミリーと過ごした後の7月20日月曜日、午後4時から35周年記念式典を行いました。市役所の正面のフロンソン公園には、既に楓が記念植樹され、カラマズー・



沼津35周年記念と銘版が埋め込まれていました。なぜ楓なのかなど思ったのですが、これが聞いてびっくり、感激なのですが、35年前にショッピングモールにやはり記念植樹をしたのが楓

だったのだそうです。そのショッピングモールはアメリカで最初のものとして有名なのですが、郊外の大型店にお客をとられ、経済効率を考えると公園的な通りよりも一方通行でダイレクトに車で行ける便利さを選び、9月完成を目指し



て取り払い工事中なのですが、すべて取り払われた中で、1本だけこの木が残されているのです。移植しようとしなくて、そのまま大事に扱われています。委員会の方々のご尽力でしょう。その同じ楓を今回植樹したのです。いわば、Maple Juniorですね。日本なら、記念植樹といえば、最後の鋤入れをするところでしょうが、あとでわかったところでは、これは、プログラムにその楓の写真を載せ、また記念品としてフレームにおさまった写真をそれぞれにプレゼントするためでありました。市長の歓迎の辞、シティマネージャーの記念植樹のお話、謝辞、そして、交流史誌、小林NICE会長に



所望して持参した富士山の絵の贈呈をしました。副市長、市議会議員、ホストファミリーも多数出席しての記念式後は、市役所ロビーでレセプ



ションが行われました。そこには、今までに沼津から贈られた記念品も展示され、また交換した

ばかりの小中学生の絵も飾られていました。小中学生の絵の何枚かは市長室にも飾られていたとのことでした。このあと、市役所内を案内していただき、7時からは市議会を訪問しました。議員さんは、名誉職で、職業を持ち多忙なので、

姉妹都市提携35周年—KALAMAZOO

議会は通常夜開かれます。そこで訪問団が紹介され、改めて、公式に35周年を祝しました。訪問のご挨拶と35周年を共に祝うことができる感謝と喜びのスピーチに対して、答礼の市長の35周年記念式典の宣言と再度の歓迎の辞には感激



いたしました。あらためて、先輩が築いてこられた歴史の上に私共が、今、ここにこうしていただけることを実感しました。翌日は、サーガタックの美しい町並みでショッピングしたり、ミシガン湖までドライブ。バーベキューランチには市長さんも加わり、温厚で誠実なお人柄もあってその日は楽しく暮れ、高校訪問、図書館、美術館、ウエスタンミシガン大学見学、カルチャー体験、(これは、沼津のアイデアをもらったんだよサンキューとホール会長)とセットされた行事をこなしていくうちに、いよいよお別れポットラックパーティーの日となりました。



最初に提携の功労者で昨年亡くなられたヘレン・ワイズさんの功績を称えて黙祷。着いたその日にいただいた手提げかばんいっぱいのお土産はどちらからのドネーションかご披露されたり、出席者の紹介、つづいて贈り物の交換、全員に日本のアイリスの絵の額と写真、NICEへは、インディアンの伝説のイーグルの置物、



圧巻は、“交流写真史キルト”でした。こちらからの交流史誌に対して、“本ではないけれど、その時まで秘密”と言われていたものでした。こ

んな技術があったのかしらと思われる写真を布にプリントして交流の歴史をキルトにまとめたものでした。考えていることは同じだったのですね。ホール会長の奥様と、メアリー・フロレス元会長、ホエクストラさんの合作だそうですが、かなりの時間と根気を要したことでしょう。その上下のスペースに出席者全員のサインを求められ、なおあるスペースには沼津に帰ってから、皆さんのサインで埋まるようにとその時使ったサインペンも一緒にプレゼントされました。あまりにも楽しく時を過ごしているので、神様が妬まれたのでしょうか、雷や稲妻にまで歓迎されたり(そのために、一晚または二晩、停電でキャンドルで過ごしたり、電話も通じないホストファミリー宅もありました。全てにビッグで、ストロングなアメリカというイメージがあるのに、弱いものを二つ発見しました。雷鳴と、竜巻です。)、今日習ったアップルパイや



おいしいポットラックディナーで少し太ったのではないかと、また作ったドリームキャッチャーでいい夢を見るのではないかと、本当に楽しい時をプレゼントしていただいてありがとうございますという、さよならスピーチに続けて、皆で“幸せなら手をたたこう”を歌って別れを惜しみました。



姉妹都市提携35周年記念市民訪問団に参加して

坂井 和子 (NICE会員)

カラマズー到着。バスは2台の白バイとパトカーに迎えられ、プリンセスの気分でのリハビリテーションセンターへ。

笑顔で出迎えてくれた市長、市議会議員、協会、ホストファミリーの温かいおも



てなしで、英語がだめで不安でしたが、ボブ、リン・ホール夫妻の易しい単語と温かいきめ細やかさで、不安は消えた。

翌日より他のホストファミリーと合流し、ドライブ。ビジターセンターへ。閉まっている。暑い〜。時差1時間……さすがに広いアメリカ!! ここは、アーミッシングヴィレッジ。過去の生活にタイムスリップした光景は不思議に思った。レストランでオーダーすると、何もかもがアメリカサイズ。デザートにブルーベリーケーキ。ビッグ……!! ペロリと平らげた。美味しかったあ〜。

ミシガン湖で泳いだ。高波が来る。琵琶湖の80倍!! もう、海としか言えない!!

「ボブ、車のキー貸して、トランクを開けるから」と言ったら、「ヤスコ、運転もするか?」とジョークも飛び交うようになった。



高校、大学訪問。羨ましいほどの設備と広大な敷地。溜め息をつくばかり……。図書館

では子供のスペースがあり、そこはファンタスティックで夢の世界!! 情報機器が十分に整い、資料検索はパソコン利用。イヤホンでそのまま本を聞く事が出来る。美術館には、小池章子さんのコーナーがあった。

35周年記念植樹祭で「楓」を植えた。数年後、大きくなった楓に再会したいと思う。市歓迎会

で沼津市小・中学生の描いた絵画、交流の品々が展示され、フロアの一角には心配りの接待があった。

市議会は夜の開催である(市議会議員は各々本職を持っているので)。一般市民はいつでも傍聴でき、テレビにも放映される。市長さんの挨拶は丁寧で心温まるお言葉でした。中村団長は、堂々として流暢で立派でした。



体験コーナーでパイ作り……簡単!! これなら私も、沼津に帰ってから出来そう。

ポットラック・パーティーには、市長さんを始めとし大勢の参加で、会食会談で盛り上がり、協会より35周年記念品として、キルトの壁掛けが贈呈された。写真を布地に添写したもので、時間と根気の結晶……。両市の35年の歩みが一目で分かるもので、参加者全員が空いたスペースにサインをした。良い記念となり、うれしかった。

この旅行中、市長さんは1週間のうち4回も来て下さり、湖では一緒にランチを食べたり、会談、いっしょに写真に入って下さったり……私たちへの心遣いに大いに感激……。

リス、うさぎ、ホテルと自然を満喫し、ショッピングをしながら中村団長と歩きながらアイスクリームを食べた思い出……、多くの友人との再会、ピクニック、湖でのクルーズ、夕陽を見ながらの語らいに心はずんだ。リンに「ヤスコ、英語が毎日少しずつうまくなったよ」と言われたこと、参加者全員が素晴らしい仲間、中村団長と一緒に旅が出来た事に感謝し、カラマズーで得た様々な体験は、生涯良き思い出として残る事でしょう。

TEA TIME

帰国報告



一年間の日本語講師を終えて

——井上秀雄 (NICE会員)

友好都市岳陽にある富岳外国語学院に日本語教師として赴任し、そして一年すべての授業課程を終えて7月18日無事日本に帰ってきました。学院は南湖の湖畔に面した小高い丘の上であり、風光明媚そして閑静、教育環境の場所として最高の条件を備えているように思いました。学生の総数200名



余り。英語のクラスが大多数を占め、日本語のクラスは1クラスだけで40名余り、全体の5分の1程度でした。近年沼津市との友好関係が深まるうちに日本語のブームもまた徐々に高まりつつあります。日本語クラスの学生の入学の動機を分析してみますと、将来日本への留学を夢見て真剣に日本語に取り組みたいと学習する者約20名、残り20名余りは他の公立校に入学できなかった俗に言う「落ちこぼれ組」。従って両者の学力の格差が激しく、教える者の立場から考えてどこに焦点を合わせて教育すべきか、毎日が試行錯誤の連続でした。就任当初、学生達は日本人教師はどんな考え方をするのか、又中国人教師とどちらがうか興味深々、日本人教師の私の一挙一動を隈なく観察していたように思います。授業を始め



てすぐに感じた事は、日本人と中国人の生活習慣の相違でした。まずは日常の挨拶、そして時間を厳守する観念、約束ごと公共のルールを尊重することの認識の相違点でした。

彼等を国際人として育て上げるためにも、読み書きの教育だけでなくこれらの一つ一つ教育することから始めなければなりません。まずは挨拶の励行、平気で遅刻する者、約束の宿題を故意に怠けたりする者、授業態度の悪い

者に対しては、厳しい罰則を設けて対処いたしました。毎日の日本語の授業は先ず私が日本語と中国語を同時に読むいわゆる同時通訳の方式をとり、そのあと学生一人一人を教壇に立たせて読ませるとい



う方式をとっていましたが、当初多少の戸惑いはありましたが、2か月後にはスラスラと日本語の教科書を上手に読み通す学生が増えてきました。時に学生が授業に疲れを感じずの時間帯を見て授業を一時中断し、日本の歌と一緒に歌ったりして20曲近く教えました。校内の外国語ソングコンテストでは私が指揮をとったコーラス3曲、見事一等賞であったことも思い出の一つとして残ります。厳しい躰と日本語の教育、しかしその反面優しいおじいちゃんの役目も十分に果たしたつもりです。

最後に校門を後にする時、学生達が目に涙をためて別れを惜しんだ姿は永遠に忘れる事ができません。



(井上さん、お疲れ様でした。体調を崩し、大変な経験もされたとお聞きしました。優しいおじいちゃんの温かさ、富岳の学生に十分に伝わっていますよ。井上さんの滞在が、日中友好に、沼津一岳陽の友好をより一層深める事に大きく役立ったと思います。これからのますますのご活躍をお祈り申し上げます)

活 動 あ れ こ れ

ふれあい部会

7月18日に燦々ぬまづ踊りに参加しました。今年は会員から「民族衣装を着ませんか？」という声が上がリ、法被を基本にしながら民族衣装を取り入れる形を試みました。結果、今までにない参加者数と、好評を頂き和気あいあいと楽しい行事になり、JRスポンサー賞をいただきました。

「次回はぜひ参加したい！」という見学していた外国の方々の声もありました。



“Giddy Mate!”

Don Cole

オーストラリア流「ハロー皆さん」



私は、オーストラリアのメルボルンから一年間仕事でやって来ました。家族と離れて暮らすのは大変寂しいけれど、日本へ来る機会を与えられて幸運だと考えています。今まで何回か短期滞在で日本へ来ましたが、初めて日本とオーストラリアの文化の違いを勉強し始めたところ です。

注目すべき違いは、日本人自身が参加し、共に楽しむたくさんの祭りがあることです。日本に居る間、私は節分、雛祭り、浜松凧揚げ祭り、そして沼津の燦々踊りを経験しました。「ねぶた祭り」も行く予定です。燦々踊りは、私が滞在した中で最も楽しい経験の一つでした。ただ脇で見ていただけでなく、参加したのは初めてでした。日本語の先生の松本さんが、「踊りに参加してみては？」と誘ってくれました。すでに浜松の凧合戦を見ていたので、沼津の祭りも同じようなものではないかと思っていました。踊りの練習に参加する前は、大きなホールの中にたくさんの山車が出て、数百人が踊るのだと想像していました。実際、化粧した多くのグループの人々が一緒に楽しむ祭りだと思いませんでした。

踊りの練習はとても楽しいものでした。たくさんの日本人、そして多くの他の国から来た人達と会う機会がありました。練習はおもしろくて、そして皆と興味深い話をたくさんする機会となりました。パレードの日、大変ナーバスになりましたが、と同時にワクワクもしました。法被を着て、爪先の分かれたヘンな靴（足袋のこと）を履いて、カラフルなはちまきをし、顔にペイントを塗った時は、大変奇妙な感じがしました。パレードの間は、皆あまりに笑いすぎて、ステップに集中することができないくらいでした。パレードの後、軽い食事を一緒にしました。たくさんの新しい友人と同じ経験をして、実に良い気分でした。お互いに連絡を取り合おうと約束をしました。事実私たちの中の何人かは他の祭りに参加する計画を練り始めましたし、日本語がうまくなるために助け合い始めました。

私はNICEの皆さんに感謝申しあげたい。再び会えることを心待ちにしています。

ドン・コール



練習風景

岳 陽 部 会

平成10年度岳陽高等師範専科学校留学生決まる！



加藤昌史さん
25歳

専攻：中国語・中国画・中国武術
期間：1年間
趣味：登山・旅行・球技全般



高橋瑞枝さん
27歳

専攻：中国語・中国武術
期間：1年間
趣味：旅行・料理



堀江俊光さん
21歳

専攻：中国語
期間：1年間
趣味：民謡・ウエイトリフティング



山田 勉さん
62歳

専攻：中国語
期間：1年間
趣味：釣り・囲碁・音楽

中国料理教室

第 1 回

日時 1998年9月27日(日)
午後1時～4時

場所 第一地区センター（第一小学校南側）

講師 井上 華子

参加費 1000円（材料費、保険料、雑費）
※当日受付でお支払い下さい。
なお、当日のキャンセルの人につきましては、参加費のお支払いをお願い致します。

人数 20名（定員になり次第締切り）

内容

- ・春巻
- ・糖酢黄瓜（胡瓜の甘酢あえ）
- ・鶏蛋羹（中国風茶碗蒸し）
- ・葱油餅（中国風お好み焼き）

持ち物 エプロン、持ち帰り用容器

申込方法 NICE事務局まで電話で申し込み

第 2 回

日時 1998年11月22日(日)
午後1時～4時

場所 第一地区センター（第一小学校南側）

講師 藤沢 昭光（NICE会員）

参加費 1000円（材料費、保険料、雑費）
※当日受付でお支払い下さい。
なお、当日のキャンセルの人につきましては、参加費のお支払いをお願い致します。

人数 20名（定員になり次第締切り）

内容

- ・焼売（シューマイ）
- ・包子（肉まん）
- ・酸辣湯（トマトと卵スープ）

持ち物 エプロン、持ち帰り用容器

申込方法 NICE事務局まで電話で申し込み

国際理解教育部会

活動報告

国際交流サロン第1回

♪国際ナショナルゲームパーティー♪

6月21日(日)、曇りのち雨という天気にもかかわらず、参加者は日本人63名外国人34名。うち半数が子供という、当部会初めてのことにスタッフ一同戦々恐々の思いでスタートしました。

ウォーミングアップをしながらグループ分けを始めると、すぐに会場は歓声に包まれ、各グループが15分ずつ4種類のゲームを楽しみ、最後に数字の代わりに名前を使った「ともだちビンゴ」をして終了。

けが人もなく盛況のうちに終了することが出来ました。



国際交流サロン第2回

♪クッキングサロン♪

7月19日(日)、市内在住の小宮山シリンさんと杉山ダッチャニーさんが母国タイの料理を紹介。トムヤンクン、タイ風チャーハン、パパイヤサラダの3品を作りました。トムヤンクンは日本人向けに唐辛子の量を控えたものと、タイで通常使われている量を使用したものと2種類を調理。本場の辛さも味わいました。



お知らせ

国際交流サロン第3回

♪国際ダンスフェスティバル参加者募集♪ ——外国のダンスを踊ってみよう!——

- と き** 10月4日(日)14:00~16:00
と ころ 第一地区センター
内 容 外国人講師ひとりに日本人が10名ずつについて各国のダンスを習い、最後に各グループが習ったダンスを披露
定 員 50名(中学生以上)
講 師 石井シュクリシュナ、櫻井玉順、ケイラ・ハラほか
申込受付 9月16日(水)から開始
 定員になり次第締め切り

英語&日本語スピーチコンテスト出場者募集中

日常思っていること、感じていることを発表するチャンスです。

外国人のお友達にも出場を勧めて下さい。

- と き** 11月1日(日)14:00~
と ころ 市立図書館4階視聴覚ホール
内 容 日本人は英語で、外国人は日本語でスピーチ 制限時間は5分
題 目 自由(ただし未発表のもの)
出場資格 県東部在住・在勤の満16歳以上の人
定 員 英語の部、日本語の部とも各10名(先着順)
賞 各部1~3位に賞状・トロフィー・副賞、参加者全員に記念品



企画広報部会からのお知らせ

近日中に、NICEのホームページが出来ます

ホームページ

<http://www2.tokai.or.jp/nice>

メールアドレス

nice@tokai.or.jp